

時報
寺
平成30年5月

永代経法要

逝・煩ト凶林

「永代経」とは、「私」が子供や孫そして

子孫の幸福を願うと同じように「私」に幸せで在って欲しいと願つて下さっている仏となられたご先祖に感謝の思いを込めて僧俗共に勤める大切な行事です

五月六日(日)
午後一時より
読経(衆僧供養)

常日頃、生活の多忙さにかまけて、ついつい忘れているご先祖のお蔭に気づき、仏恩報謝のひと時を共にすごしましょう。

法話
おとき

風薫る五月、貴家皆様にはご健勝にてお

当山順正寺では永代読経志を左記に定め、順正寺永代読経過去帳に記載し永代供養致しております。ご希望の方は住職までお申し出下さい。

過ぎしの事と存じます。

さて、例年のとおり「永代読経法要」を厳修いたします。

*特別永代読経(毎月ご命日読経、祥月命日特別読経)

志納金参拾萬円以上

*永代読経(毎月ご命日読経)

志納金壹拾五萬円

おそらく今世紀の終わりには人間の最大の欲望である不老不死は実現するだろう。マア、あと八十年も後の事だから私には関係ないと思われるかもしない。

あとからくる者のために

田を耕し 種をよういしておくのだ

山を 川を 海をきれいにしておくのだ

ああ あとからくる者のために

苦労をし 我慢をし

みなそれぞれの力を傾けるのだ

あとから続いてくる あの可愛い者たちのために

みなそれぞれ自分にできる 何かをしていくのだ

坂村真民

確かに八十年後にはこの私は形をもつて存在しない。しかし「あとからくる者」とは断絶することなく良きにつけ悪しきにつけ繋がっている。用意した種がきれいな花となるか、花をつけず枯れるかはわからないがそれでも今できることを考え実行していくことが大事なのだろう。人間の歴史は試行錯誤の連続だ。時にその時点で最悪の結果を生み出すこともある。その結果が「あとからくる者」に渋々でも納得してもらえるかどうかは、自分の「今の享樂」^{あるじ}を主として行動するのか、「あとからくる者」を思つて行動するのか、そこにあるのかもしれない。

因みに蛇足となるが、私は「誰かの為」と言うのは好きではない。「世の為、人の為」気恥ずかしい言葉だ。法語に「人の為と書いて偽りと読む」とある。

人間の行動の本源には自己満足が必ずある。だが最近は無批判に当たり前に使われている。営利を目的とする企業でさえ「お客様の為に」なんて平然とコマーシャルを流す。恩着せがましいとんだ野暮天だ。おなじ自己の欲望が本質に在つても「あとからくる者が笑顔でいてくれたら」くらいが丁度いいよう気がする。

その2

一人でいると孤独感
二人でいると劣等感
三人でいると疎外感

(常護寺副住職 藤場芳子)

お彼岸にお配りした真宗会館発行の「言の葉カード」の言葉

です

私もほぼ感じません。でもそれは感じなくてよい縁が今私に身の事実です。そんな事、感じないという人もいるでしょう。

働いてくれているからに過ぎず、ひとたび縁が変われば孤独感、劣等感、疎外感にさいなまれてしまします。心はそういつた厄介な事象から逃れたいと欲求します。ならば単純に、「縁」をどうにかすればよいなどと考え、祈祷したり、方角がどうとかやる人もいますが、無意味です。係わつてくる「縁」は選べません。「縁」が事象ならそこに良し悪しは無いのです。良し悪しは私の都合が決めているにすぎません。自己中心から離れられない事実を生きていくしかないのですが、厄介なのはその中心だと思って「都合」もその時々しようとちゅう変わることです。しかも変わっていることに気づきもしません。まさに無明迷妄を生きてています。

お釈迦様は

自らを 燐火とせよ、法(仏の教え)を燈火と
せよ

と遺言なさっています

生きていく以上自身を頼りとする以外ありませんがそれだけでは迷妄します。そこで変わることの無い真実の法も足元を照らす燈火とすることを勧められました。照らされて足元が見えた時、苛まれてすくんでいる足が一步踏み出せます

時間という概念に縛られて生きているのが人間でしょう。

一分は六十秒 一時間は六十分 一日は二十四時間
一年は三百六十五日 私は五十四歳

人間は、時間というものを持った時から、過去と未来を生きるようになったのでしょうか。先日、テレビのお笑い番組で、陣内智則さんという芸人さんが、命について蟬と対話するというコントをされていました。「何のために生きてるんかな」と自暴自棄になつている日々をむなしく生きているという設定の陣内さんに、蟬が「おまえは俺がどれだけ生きるか知つていてるか? (羽化後) 七日だぞ」と話しかけてから、蟬が死ぬまでをコントにしていましたが、それを笑いながら観ていて、「でも、蟬は何日生きるだの、後どれくらい生きられるだの、本当は関係ないんだよなあ。ただ、今を生きているだけなんだよなあ」と、考えさせられました。人間だけだよなあ、明日を生きているの、と。でも、時間という概念がなければ生活が成り立たなくなっているが現実です。

そんなことはない。私は年齢とか、日にちとか、気にしない。時間に無頓着だから!と、いう方もいらっしゃるかもしれません、少なくとも社会の機構がこの時間というもので成り立つていて、そこに生きる以上は時間は無視できません。流通というものひとつを考えてみても、その主軸となる飛行機や電車や船は、緻密なダイヤというものが編まれて、それに沿つて出発時間や航路などが組まれ

ているらしいですし、その時間が少しでもずれただけで大事故に繋がりかねないとも聞きます。そうした流通機関が整つてゐるのがいまの社会であり、それによつて、私たちの生活が成り立つてゐるのは事実です。

便利さを求めるほど、時間というものが大事になつてくるようです。昔は、時計なんて、一月もすれば数分遅れたり進んだりするもの、ですんでいましたが、私が高校生くらいの頃には「月差プラスマイナス数秒」なんて時計が登場し、いまでは「電子時計」なんて月差どころか全くくるいがない時計まであります。そして、私自身が、時間に縛られたくない、と言いながら、その電子時計を好んで選んでしまっています。で、日々それが合つているかどうかを携帯やパソコンの時間とずれはないかを確認してたりします。完全に縛られています。

生活に潤い、社会にゆとり、といいながら、面白いもので、時間的に追い込まれて、生活も社会もギスギスしてきています。しそつちゅう私は時間を気にしてイライラしている日々を過ごしています。

それだけ時間というものが私の生活を支配しています。

南無阿弥陀仏というのは、「無量寿(むりょうじゆ)」という意味です。これは、「量れない時間」、「量り知れない命」ということです。時間という概念をぶち壊してくれるのが南無阿弥陀仏です。

私は、最初に書きましたが、現在の社会通念上では五十

四歳です（ギリギリですが）。だからなんだよ？でしょ。

そうなんですよね。だからなんだってことです。

それに対し阿弥陀さんは、「おまえさんがそこにあるのは、そんな人知で量れるような浅はかなもんじやないよ」といってくれます。地球上に生物が誕生したのは三十八億年前といわれています。そこからいま、私が私としてあるためにいたいでいるこの時まで、一瞬たりとも命は耐えることなく、休むことなく連続しているのです。三十八億年が作り出している今を生きているのです、地球上に命が誕生したときから考えただけでも。でもそれが始まりではないですね。宇宙の始まり。その前には？ そう考えると、ものは、考えも及ばないくらいとんでもない今なんです。

時間的なことでいえば百二十億だの四十六億だの三十八

億だと大まかでもいえるかもしれません、氷河期があつたり、大地震があつたり、隕石がぶつかつたり、大爆発があつたり、そんな中で、海からたまたま陸上に上がったり、とんでもない大事件が起きてもなお一瞬たりとも絶え間なく繋がっているのが今です。だいたい、自分の親や祖父母が出会ったことも不思議でしょ？ だって、生まれてから出会うまで全く知らなかつたかもしれない二人が出会つて子供を産むなんて。とんでもない奇跡が連続してここにあるのが私です。

ここで自分のことを過去と未来で観るようになりました。今を觀ることが困難になりました。でも、そのおかげで、今ここにあることが奇跡なのだと、また、この命が限りあるものなのだとということを知ることも出来たのです。私が私としてあることは今この時だけなのだと知ることも出来たのです。私に命をつないでくれたすべてに感謝をし、量り知れない命と時間によつて或る自分自身に感謝することが大事だとお釈迦様は説いてくれました。それでも、今を生きることが出来ず、過去と未来という時間にさいなまれ、自身を見失つている私は、自分自身を無条件で受け入れ無条件で感謝することなど出来ません。だから、南無阿弥陀仏という仏さまが、先に往かれた仏たちが、私に「在つてくれてありがとう」と感謝してくれているのです。手を合わせてくれているのです。

その慈悲の心に触れた瞬間、その瞬間だけ、私は時間という概念から解き放たれ、永遠を生きているのでしょうか。

永代経というご法要は、私を時間的概念から解き放ち、過去・現在・未来という垣根を取り払い、浄土を仏とともに生きる大切なご法要です。

こう書いてみて、つくづく思うのですが、本当に時間に縛られているなあと。。。だいたい、いま、是れを書いているのも締め切りに追われて時間気にして書いているわけでした。。。予定枚数より一枚多くなつてしまつたけど、まとめる時間もないですし。。。時間で大切。。

私たち人間は時間という概念を持つてしまいました。そ

かつて一世を風靡した「ダヴィンチコード」と言う小説のシリーズ最新刊「オリジン」は科学が生命の原初を解明するが故、全ての宗教が意味を持たなくなる危機にさらされるというお話だ。

ただそこはアメリカの作家故ここに出てくる宗教はキリスト教を主として原始宗教（日本の神話）のような創世神話を持つ宗教だけが物語の中心になる。仏教においてはその教えに原初と言うものはない。すべての現象は「縁」によると考える。事象と事象が関係し何かを生み出す、その元となる事象も他の事象と係わることによって生まれた。これが延々と過去の方向にも未来の方向にも続くという。

永代経の永は永久、代は時代つまり時間であり場所のことです。仏さまとその教えはあなたがいつの時でもどこの場所に居ても常にあなたと共にいる、苦悩する人間が居るところには必ず慈悲として働いていることを表します。私自身も遠い過去からの縁の積み重ねが事象として結実したものです。そこには仏さまの縁も常に働き私を育てて下さっています。

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さん「経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまします。その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることが有

ります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとつて一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い致します

定例行事 いずれもご自由にご参加下さい

聞法会 毎月2日夜7時から、「御文」のお話、座談会をやっています（1月、8月はお休み）

歎異抄を読み聞く会「微妙音」 毎月5日午後2時

十一月はお休みします

白色白光の会（婦人会） 每月第2木曜午後1時

お経（正信偈）の練習と法話と茶話会

「照久会」 浄土真宗初めて講座 二月、四月、六月、十月、十二月の第2土曜午後2時より5時まで（参加費 2千円、照久会会員は千円） 講師 聞成寺住職 佐竹貫裕師

仏像なぞり書き「仏像描くぞう」

第2水曜午後6時と月の最終日曜日午後3時から

参加費三百円（初回のみ別途テキスト代千円）

照久山順正寺

練馬区石神井町3の17の4

03-3796-2064